

海域の概要

本湾は、壱岐島の南部に存在する湾で、南部を壱岐水道に開いています。湾奥には郷ノ浦湾があり、壱岐島の政治・経済・文化・漁業の中心地となっています。



Specification

諸元

湾口幅：2 0 5 k m

面積：5.1 9 k m²

湾内最大水深：3 7 m

湾口最大水深：3 7 m

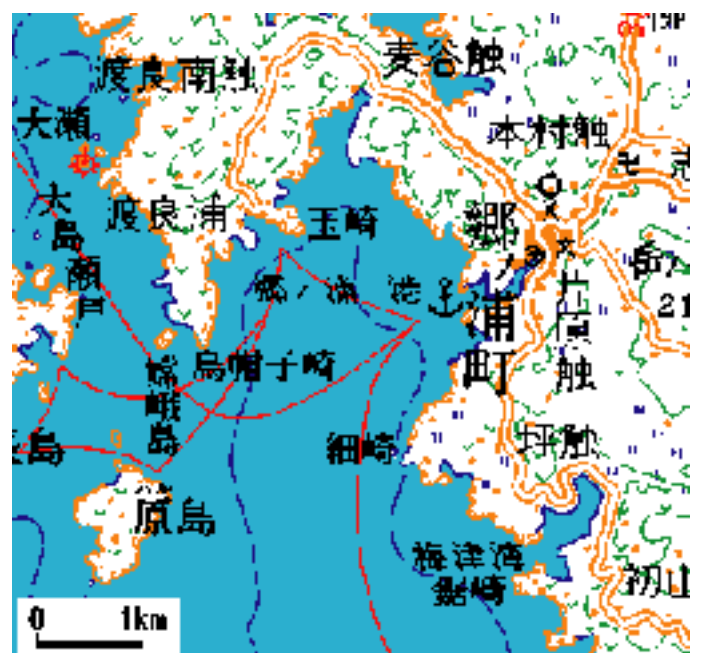
閉鎖度指標：1 . 1 1

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

長崎県壱岐郡郷ノ浦烏帽子崎から 119 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。



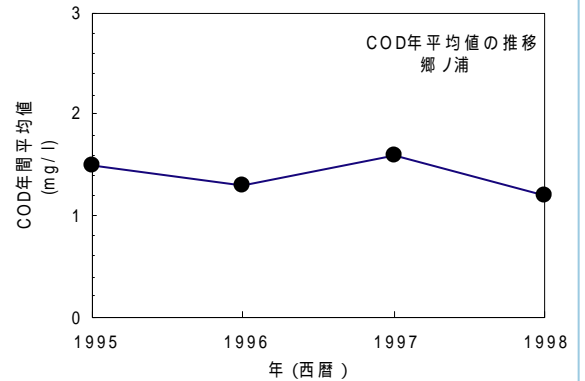
環境

湾口を壱岐水道に開いている湾で、島の周囲を対馬暖流が北東に向かって流れています。気候は太平洋岸気候区に属し比較的温暖ですが、冬季は大陸からの北西季節風が卓越します。

大きな流入河川もなく、外海に浮かぶ島の湾であることもあり、全般に水質は良好です。

郷ノ浦港内のCOD年間平均値は、1.5mg/l前後で推移しています。

底質は、岩が中心ですが、湾口南部を中心に砂又は貝殻混じり砂となっています。



自然

郷ノ浦周辺には、壱岐渡良の「アコウ」、地表に溢れ出て冷え固まったマグマの様子がみられる「初瀬の岩脈」の他、東洋一の砲台跡、鬼が壱岐をまたいで鯨をすくった足跡といわれる鬼の足跡、塩樽、栗岳、大島の海水浴場などの個性豊かな景観をみることができます。また、壱岐の最高峰の岳ノ辻は、壱岐全体を見渡すことができる景勝地です。なお、周辺の沿岸は壱岐対馬国定公園に指定されていますが、郷ノ浦湾は除外されています。

湾内には、ヨレモクを主体とするガラモ場がよく発達しています。

壱岐では約500万年前のステゴドンが発見されています。ナウマン象が東アジアから日本に渡ってきて栄えたのは、約100万年前から2万年前とされ、ステゴドンの発見は、日本列島と大陸との繋がりを解明する際の学術的資料として貴重です。



渡良のアコウ

文化歴史

壱岐は弥生・古墳時代の遺跡が多く、郷ノ浦町だけでも100を超える遺跡があり、島全体で見ると長崎県の古墳の約半数を占めています。古代の壱岐は、国境の島としての宿命はさがたく、幾多の元寇等の外敵の侵入を受け、国境警備隊として防人が置かれ、平戸との交流がさかんになるにつれ、城下町郷ノ浦は、急速に発展しました。

産業

沿岸漁業を中心に行われている漁業は、イカやブリなど回遊魚が多く漁獲されています。

郷ノ浦町は、猿岩、鬼の足跡をはじめとする天然資源、古墳等古代史に関連した人文資源、また、農漁業や焼酎等の地場産業もあり、観光地としてすばらしい素材を有し、黒崎半島、牧崎、小牧崎とあわせて、人々がオールシーズン楽しめる観光レクリエーション基地となっています。



猿岩